

第3学年 英語科学習指導案

令和4年1月28日（金）

1 単元名 You Can Do It! 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう (Here We Go 3)

2 単元について

本単元は、これまでの既習事項を用いて「学校に必要なもの」について「自分の意見を伝えること」を目標とした単元である。また、スピーチのように自分の意見を一方的に伝えるだけでなく、自分の意見をグループで意見交換することを目指した単元である。つまり、自分の意見を一方的に話すだけでなく、相手の意見をしっかりと聞いて自分の意見を伝えたり、自分の意見の根拠となる理由を述べたりすることが求められている。

3学年では、Unit4で〈AIと言語〉に関する記事を読み、どの記事に賛成または反対するかを明確にして意見を述べたり、〈Learning Foreign Languages〉について自分の意見を述べたりする活動を行った。また、Unit2では現在完了を用いて〈おすすめの観光地〉を紹介したり、Unit5では〈環境問題〉についての本文を読んだ感想を伝えたりして、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする活動を行った。本単元はその集大成として、これまでの既習事項を総動員し、単に自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見も聞きながら自分の意見を伝える題材と理解している。

3 生徒の実態について

本学級は落ち着いた生徒が多い。英語の授業においては、与えられた課題に対して落ち着いてじっくりと取り組むことができるが、学力差や英語への苦手意識等から、学習意欲に差がある。

英語に対する意識アンケートの結果（省略）から、本学級の生徒は「英語は将来役に立つ」と考えており、4技能の中で「話すこと」を身に付けたいと思っている生徒が最も多いが、「話すこと」を得意としている生徒が最も少ないことが分かる。また、「話すこと」については「やりとり」する力を身に付けたいと思っている生徒が多いことが分かる。

令和3年度に実施した埼玉県学力・学習状況調査の集計結果（省略）から、本校の生徒は「表現の能力」と「記述式」が全体を上回っているものの、「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。」問題は全体の正答率を大きく下回っており、領域や観点、問題の形式によって、正答率に大きな差があることが分かる。

アンケート結果と埼玉県学力・学習状況調査の結果から、本学級の生徒は、「話すこと」を身に付けたいと思っている生徒が多いが、「話すこと」に苦手意識があることがわかる。そして、全体の正答率をはじめ、ほとんどの領域や観点、問題の形式が全体の正答率を下回っている。そこで、英語の4技能5領域をバランスよく育成するとともに、生徒にとって身に付けたい力でありながら苦手な力となっている「話すこと」を育成したい。また、本単元は「自分の意見を伝えること」が主となる題材であるため、生徒が身に付けたい力として挙げている「話すこと（やりとり）」の育成を目指し、生徒の実態を踏まえ授業を展開したい。

4 指導観

学習指導要領（外国語編）（平成29年告示）は、「話すこと」が「話すこと[やりとり]」「話すこと[発表]」に分けられ、5領域に改訂された。そこで、学習指導要領改訂を踏まえ、語彙や文法等の知識や4技能の能力を確実に身に付けることに加え、「やりとり」や「即興性」を意識した活動や統合的な言語活動を通して、生徒のコミュニケーションを図る資質能力を育成したい。

八潮市では「つかむ・見通す」「考える」「深める」「まとめる」を授業の基本形とする「八潮スタンダード」を用いた授業を実践しており、本単元でも「八潮スタンダード」を基に授業を展開して

いく。また、今年度重点を置いたことの1つに「インプットとアウトプットの接続」と「効果的な中間指導」がある。本単元の目標は「『学校に必要なもの』について『自分の意見を伝えること』」であるが、単に意見を言わせたり、書かせたりするのではなく、「様々な人の考えをインプットさせ、インプットしたことをアウトプットさせる」という流れを意識し、効果的な中間指導を交えながら授業を展開したい。また、仲間の意見を読んだり聞いたりすることで自分の意見を深めたり、表現の幅を広げたりするなど「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して「コミュニケーションを図る資質能力の向上」につなげたい。

英語の授業では「英語班」を編成して授業を展開している。英語班は学力の高い生徒をリーダーとし、クラス内の人間関係や学力バランス等を考慮して編成している。リーダーを中心としたグループ学習や対話的な学習を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指したい。クラスのあたたかい雰囲気や基盤とし、間違えることを恐れずに英語を話す雰囲気を作り、生徒一人ひとりが主体的に授業に参加し、成就感を味わえる授業を展開したい。

5 研究主題との関連

<p>研究主題</p> <p>生徒の発信力強化に向けたコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す 指導の工夫・改善</p> <p>～ 基礎基本の定着と小中高の円滑な接続を目指して ～</p> <p>目指す生徒像</p> <p>お互いの考えや気持ちについて英語でコミュニケーションできる生徒</p>

<p>仮説① 「聞く・話す」と「読む・書く」の指導と評価の一体化を図れば、生徒のコミュニケーション能力が育まれるであろう。</p>	<p>仮説② 外国語を活用できる環境を整備すれば、生徒のコミュニケーション能力が育まれるであろう。</p>
<p>手立て ①インプットからアウトプットへ ②意図的・計画的な中間指導 ③ICT機器の効果的な活用</p>	<p>手立て ①小中連携した Classroom English ②英語の掲示物等の活用 ③帯活動の充実</p>

本校の喫緊の課題は「学力向上」である。埼玉県学力・学習状況調査等の結果を見ると、全学年の全教科において、全体を下回る結果となっている。そこで、目指す生徒像を具現化するために、まずは基礎基本の定着を徹底したい。その上で、思考力、判断力、表現力を育てていきたい。また、小中の連携を密にしたり、高校の授業を参観したりして、小中高の円滑な接続を目指したい。

本校英語科では、「お互いの考えや気持ちについて英語でコミュニケーションできる生徒」を目指す生徒像としている。そのために、コミュニケーションを図ろうとする態度を養い、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付け、目的や場面、状況などに応じてこれらを活用して表現したり、伝え合ったりする「思考力、判断力、表現力」を育成したい。そこで、今年度は「帯活動の充実」「インプットとアウトプットの接続」「即興で話したことを書くことにつなげること」を意識してきた。また、「効果的な中間指導」や「単元のまとまりを意識した授業展開」を意識してきた。生徒の発信力強化に向けて、「お互いの考えや気持ちについて英語でコミュニケーションできる生徒」の育成を目指したい。

本単元においても、「『学校に必要なもの』について単に意見を言わせたり、書かせたりするのではなく、「様々な人の考えをインプットさせ、インプットしたことをアウトプットさせる」という流れを意識しながら授業を展開したい。また、ICT機器を積極的に活用し、生徒がコミュニケーションを図る手助けとしたり、生徒の考えを深めたりすることを目指したい。

6 単元の目標

「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の考えや理由などを整理し、自分の意見を話したり書いたりすることができる。

(1) 既習事項を理解し、「学校に必要なもの」について自分の意見や理由を話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。

【知識及び技能】

(2) 「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を話したり書いたりしている。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を話したり書いたりしようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

7 学習指導要領における該当する領域別目標

話すこと [やりとり]	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
書くこと	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

8 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[発表]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	A知識・技能	B思考・判断・表現	C主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やりとり] や	[知識] ①人の意見に賛成したり、反対したりするときの表現を理解している。 [技能] ②「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝える技能を身に付けている。	「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を話している。	「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を話そうとしている。
書くこと 書	[知識] ①人の意見に賛成したり、反対したりするときの表現を理解している。 [技能] ②「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝える技能を身に付けている。	「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を書いている。	「学校に必要なもの」についての自分の意見を伝えるために、自分の意見や理由を書こうとしている。

9 単元の指導と評価の計画（5時間扱い）

時	◆ねらい ○学習活動	評価		
		A	B	C
1	◆本単元の目標を理解する。 ◆教科書の英文を読み、登場人物の意見と理由を読み取る。 ○本単元の題材に関するやり取りを行う。			
評価規準〈評価方法〉				
○本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。				

	○教科書本文の音読活動を行う。				
2	◆教科書の意見について、自分の意見と理由を伝えることができる。 ○マインドマップを作成し、自分の意見と理由を伝える。	や ① ②			○教科書の意見について、賛成したり反対したりする表現を使っている。〈観察〉
3	◆「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見と理由を伝えることができる。 ○教科書以外の英文を読み、意見と理由を伝え合う。		や	や	○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見や理由を話している。〈観察〉
4 時	◆「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見と理由を伝えることができる。 ○教科書以外の英文を読み、意見と理由を伝え合う。		や	や	○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見や理由を話している。〈観察〉
5	◆「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見と理由を伝えることができる。 ○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、パフォーマンステストを行う。		や	や	○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見や理由を話している。〈パフォーマンステスト〉
後 日	◆「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見と理由を書くことができる。 ○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、ペーパーテストを行う。	書 ① ②	書	書	○「対面授業とオンライン授業どちらがよいか」について、自分の意見や理由を書いている。〈ペーパーテスト〉

10 本時の学習指導

- (1) 本時の目標（ねらい）
トピックについて意見と理由を伝え合い、意見を深めることができる。
- (2) 準備
タブレット、ワークシート（マインドマップ作成資料）
- (3) 学習過程（本時4／5）

過程	学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ★八潮スタンダード ●研究主題との関連 ■ICTの活用
つ か む 5	1 Greeting & Warming up (1) あいさつ (2) check the useful phrases (3) small talk	○英語の授業の雰囲気をつくる。 ○自分の意見を伝える際に使いやすい「useful phrases」を確認し、本時の活動につなげられるようにする。 ○スモールトークは、簡単なトピックを設定し、useful phrasesを使わせるとともに、本時の活動につなげられるようにする。
	2 本時の目標確認	★本時の目標とトピックを確認し、本時の学習の見通しを持たせられるよう留意する。
Goal: Let's communicate the reasons to deepen our opinion.		
Topic: Which is better, face to face lessons or online lessons?		

		<p>★ループリックを提示し、ループリックで本時の目標を確認することで主体的に活動できるようにするとともに、振り返りでもループリックを活用し、指導と評価の一体化を図る。</p>
		<p>○Communicate the reasons A 理由を2つ以上入れて自分の意見を伝えることができる。 B 理由を1つ入れて自分の意見を伝えることができる。 C 理由は言えないが自分の意見を伝えることができる。 D 自分の意見を伝えることができない。</p> <p>○Deepen our opinion A 相手の意見を理解し、意見を深める質問や発言をすることができる。 B 相手の意見を理解し、発言や質問をすることができる。 C 相手の意見を理解できるが、発言や質問をすることができない。 D 相手の意見を理解できず、発言や質問をすることができない。</p>
<p>考える 10</p>	<p>3 意見提示</p> <p>4 writingリレー</p> <p>(1) 自分の意見と理由</p>	<p>●市内のALTによるトピックに対する2つの意見（対面授業とオンライン授業）の英文をALTの音声と文字で生徒に提示する。意見と理由が入ったシンプルな英文にし、内容理解に重点を置くのではなく、本時のディスカッションのためのインプットとして英文を理解させる位置づけとする。■</p> <p>★トピックに関連した英文を読ませることで、その中の情報を自分で抽出、整理、統合させ、対話的な学びの実現につなげる。</p> <p>★英文を生徒に提示する際、音声と文字で提示するだけで、内容理解の時間は特に設けず、内容理解についてはグループのリーダーを中心に確認させる。</p> <p>○writingリレーは、タブレットのチャンネル機能を用いて行うグループトークである。対面授業派とオンライン授業派をそれぞれ4グループずつの8グループに分ける。そして、8グループから対面授業派とオンライン授業派の1グループずつを選んだ4グループを編成する。生徒は自分の意見を投稿したり、他者の意見を読んで自分の意見を投稿したりする。また、意図的に相手の意見を否定するなどし意見を深めていく。■</p> <p>○ディスカッションにつなげるため、本時は、生徒がどちらの意見をもつかについて教師側が決める。</p> <p>★わからない単語や表現があるときは、グループの教え合いやタブレットを使ってもよいものとする。■</p> <p>●自分の意見を書かせる際は、先に提示したALTの意見を参考にしてもよいものとする。■</p> <p>○(1)は、意見と理由を書かせるが、英文ではなくメモでもよいものとする。また、スローラーナーは理由を書けなくても意見は書けるよう支援する。</p>
<p>深める 30</p>	<p>(2) 自分と反対の意見を否定</p> <p>(3) 自分と同じ意見を援護</p>	<p>○(2)は、自分と反対の意見の人に対して、自分の意見と相手の意見を選ばなかった理由を書かせる。■</p> <p>○(3)は、自分と同じ意見の人に対して、これまでの意見を読み、これまでの意見を参考にしながら、自分の意見と理由を書かせる。■</p>

	<p>(4) (2) (3) を継続</p> <p>5 マインドマップ作成</p> <p>6 ディスカッション</p>	<p>○ (4) は、(2) (3) を継続し、まだ自分の意見を投稿していない人に意見と理由を書かせる。■</p> <p>● 中間指導を行い、よい表現を紹介したり、多い間違いを修正したりすることで、活動の効果을上げ、対話的な学びを実現する。</p> <p>★ 仲間の意見と理由を読ませることで対話的な学びを実現させ、自分の意見を深めさせる。</p> <p>○ writingリレーを参考にしてマインドマップを作成させる。英文を書かせるのではなく、マインドマップやメモを書かせることにより、この後のディスカッションで即興性をもたせられるようにする。■</p> <p>★ writingリレーを参考に、自分の班だけでなく自分の班以外の班のやりとりも参考にさせ、対話的な学びを通してマインドマップを作成し意見を深めさせる。</p> <p>○ 全員に自分の意見と理由を言わせる。また、グループの仲間の意見に触れながら自分の意見や理由を言わせたり、質問させたりして、自由にディスカッションさせる。</p> <p>○ 対面授業派とオンライン授業派の意見を聞きながらフリーでディスカッションさせることで、即興性のあるやりとりにする。</p> <p>○ 即興性を重視するため、タブレットは使わずにマインドマップを用いてディスカッションさせる。また、ディスカッションを通して学んだ表現や深めた意見をマインドマップに書き加えさせていく。</p> <p>● 中間指導を行い、よい表現を紹介したり、多い間違いを修正したりすることで、活動の効果을上げ、対話的な学びを実現する。また、それぞれの意見を深める意見を伝え、生徒が意見を深める一助とする。</p> <p>★ ディスカッションを通して、新たな表現を学んだり、自分の意見を深めたりさせる。</p>
<p>まとめる</p> <p>5</p>	<p>7. 振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>Can you communicate the reasons to deepen your opinion?</p> </div> <p>(1) 今日の振り返り</p> <p>(2) 表現について</p>	<p>○ (1) は、ルーブリックを用いて自己評価させる。</p> <p>○ (2) は、「言いたかったけど言えなかった表現」や「仲間から学んだ表現」を振り返らせる。</p> <p>★ 本時の振り返りをするとともに、次の時間の予告をすることで、次回の見通しを持たせる。</p>

1.1 本時との関連

(1) 本時の八潮スタンダードとの関連

本時において、『八潮スタンダード』の「つかむ→考える→深める→まとめる」を意識して授業を展開していく。

「つかむ・見通す」では、本時の目標を明確にすることで、生徒が見通しを持って活動できることを目指している。また、トピックを確認したり、ルーブリックを用いて具体的な目標を確認したりし

て、生徒が主体的に取り組むことを目指している。

「考える」では、トピックについての自分の意見を考えさせることを目指している。また、トピックについてのALTの意見を読むことでインプットさせ、インプットした情報を自分で抽出、整理、統合させ、自分の意見を考えさせることを目指している。

「深める」では、「writing リレー」や「ディスカッション」を通して、自分の意見を深めることを目指している。仲間の意見を読んだり仲間の意見を否定したりして自分の意見を深めたり、仲間の意見や理由に共感したり新たな表現を学んだりして、自分の意見を深めることを目指している。

「まとめる」では、本時を振り返ることを目指している。ループリックを用いた自己評価や「言いたかったけど言えなかった表現」や「仲間とのやりとりで参考になった表現」を記録することで本時を振り返ることを目指している。

(2) 本時の研究主題との関連

本時において、研究主題との関連として、以下のことについて重点を置いて授業を展開していく。

①インプットとアウトプットの接続

トピックについての意見と理由を自分だけで考えるのではなく、文化等が異なる様々な国の出身者である市内のALTを活用し、ALTの意見と理由をインプットさせてから自分の意見や理由を考えさせたり、仲間の意見や理由をインプットさせたりしてからアウトプットさせるようにする。

②意図的・計画的な中間指導

「writing リレー」や「ディスカッション」において、きめ細かな机間指導を行い、必要に応じて意図的・計画的に中間指導をしていく。中間指導では、よりよい表現の紹介や間違いの修正、それぞれの意見を深める意見を伝える等、本時の目標に迫れるようにしていく。

(3) 本時の重点項目

本時において、以下のことについて重点を置いて授業を展開していく。

①「主体的・対話的で深い学び」の実現

ループリックを用いて目標と評価を明確にすることで、生徒の主体的な学びにつなげていく。また、「writing リレー」と「ディスカッション」では、仲間の意見を読んだり聞いたりすることで自分の意見や理由を膨らませる対話的な学びを目指すとともに、対話的な学びを通して自分の意見を深めることを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。

②「やりとり」と「即興性」を育む授業展開

「writing リレー」では自分の意見を投稿するだけでなく、仲間の意見を読んで即興でコメントする力を身に付けることを目指している。また、「ディスカッション」では、相手の意見にも触れて自分の意見を伝えたり、フリーでディスカッションしたりするなど、即興で意見を伝え合ったり、自分の意見を伝えるだけでなく、やりとりする力を身に付けることを目指している。

③ICTの活用

これまで本課のような自分の意見を述べる単元では、ノートに自分の意見を書かせ、ノートを交換することで対話的な学びを実現させてきた。しかし、ICTの効果的な活用を目指し、本時は「writing リレー」でICTを活用し、より多くの仲間の意見を読んだり、自分のペースで書き込むことで時間の効率化を図ったりするなど、個別最適な学習や対話的な学習につながることを目指している。